

青森県経済統計報告

平成 24 年 8 月 3 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 24 年 7 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,351,462 人（対前月 545 人減少）
自然動態	579 人減少（出生者数 692 人、死亡者数 1,271 人）
社会動態	34 人増加（転入者数 1,270 人、転出者数 1,236 人）

2 本県の経済動向（平成 24 年 5 月・6 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、東日本大震災の影響が薄れるなかで、生産面は横ばいの動きとなっているが、消費面の持ち直しが続いている。また、雇用面も引き続き堅調に推移している。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成 24 年 5 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年=100)は、季節調整済指数が 106.6 で、前月比 2.2%の低下となり、2 ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 103.6 で、前年同月比 25.0%の上昇となり、4 ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用情勢 平成 24 年 5 月の定期給与は 214,246 円で前年同月比 0.2%減となった。総実労働時間は 150.9 時間で前年同月比 0.9%増、所定外労働時間は 8.5 時間で前年同月比 0.1%増となった。平成 24 年 6 月の有効求人倍率（季節調整値）は 0.61 倍で、前月比 0.02 ポイント下回った。 … 3
- (2-3) 物価 平成 24 年 6 月の青森市消費者物価指数（平成 22 年=100）は、総合指数が 99.1 となり、前月比 0.8%の下落、前年同月比 1.3%の下落となった。 … 4
- (2-4) 個人消費 ・平成 24 年 5 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 144 億 5,500 万円 で前年同月比 2.1%増となり、3 ヶ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは 1.5%増となり、3 ヶ月連続で前年同月を上回った。
・平成 24 年 6 月の観光入込客数は、主な観光施設が前年同月比 26.9%増となり、4 ヶ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は 13.9%増となり、4 ヶ月連続で前年同月を上回った。
・平成 24 年 6 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 4,616 台で、前年同月比 33.5%増となり、10 ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成 24 年 6 月の新設住宅着工戸数は 612 戸で、前年同月比 25.4%増となり、2 ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 6
- (2-6) 電力 平成 24 年 6 月の大口電力使用量は 2 億 2307 万 kWh で、前年同月比 11.1% 使用量増となり、5 ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 6

（3）景気動向指数 C I（平成 24 年 5 月分）…………… 7

先行指数	135.6（前月を 13.7 ポイント下回り、6 か月ぶりに下降した）
一致指数	118.9（前月を 3.6 ポイント下回り、5 か月ぶりに下降した）
遅行指数	99.7（前月を 5.2 ポイント下回り、2 か月連続で下降した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 24 年 7 月期）…………… 8

- 3 ヶ月前と比べた景気の現状判断 D I …… 50.3（前期比 2.5 ポイント増、4 期ぶりに 50 を上回る）
- 3 ヶ月後の景気の先行き判断 D I …… 50.5（前期比 3.0 ポイント減、3 期連続で 50 を上回る）

1 青森県の推計人口（平成24年7月1日現在）

【概況】

平成24年7月1日現在の本県推計人口は、1,351,462人で、前月に比べ545人の減少となった。

○自然動態

出生者数が692人、死亡者数が1,271人で、579人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,270人、転出者数が1,236人で、34人の増加となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数			社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女			出生者数	死亡者数				
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
23.7.1	1,364,252	641,261	722,991	-0.028%	-379	-406	853	1,259	27	1,506	1,479
23.8.1	1,363,895	641,084	722,811	-0.026%	-357	-418	796	1,214	61	2,013	1,952
23.9.1	1,363,591	640,968	722,623	-0.022%	-304	-450	877	1,327	146	2,210	2,064
23.10.1	1,363,038	640,662	722,376	-0.041%	-553	-443	781	1,224	-110	1,474	1,584
23.11.1	1,362,455	640,365	722,090	-0.043%	-583	-618	775	1,393	35	1,479	1,444
23.12.1	1,361,835	640,067	721,768	-0.046%	-620	-572	793	1,365	-48	1,154	1,202
24.1.1	1,361,053	639,658	721,395	-0.057%	-782	-726	732	1,458	-56	1,035	1,091
24.2.1	1,360,012	639,170	720,842	-0.076%	-1,041	-805	816	1,621	-236	963	1,199
24.3.1	1,358,799	638,575	720,224	-0.089%	-1,213	-893	709	1,602	-320	1,012	1,332
24.4.1	1,353,174	635,460	717,714	-0.414%	-5,625	-756	742	1,498	-4,869	3,822	8,691
24.5.1	1,352,715	635,268	717,447	-0.034%	-459	-661	716	1,377	202	3,907	3,705
24.6.1	1,352,007	634,904	717,103	-0.052%	-708	-674	832	1,506	-34	1,488	1,522
24.7.1	1,351,462	634,663	716,799	-0.040%	-545	-579	692	1,271	34	1,270	1,236

6月中の人口動態の推移

（単位：人）

年月		平14.6	15.6	16.6	17.6	18.6	19.6	20.6	21.6	22.6	23.6	24.6
自然動態	出生者数	967	992	985	831	910	812	862	780	879	853	692
	死亡者数	1,011	1,045	1,064	1,151	1,189	1,173	1,219	1,318	1,289	1,259	1,271
	自然増減数	-44	-53	-79	-320	-279	-361	-357	-538	-410	-406	-579
社会動態	県外からの転入者数	1,406	1,559	1,413	1,434	1,345	1,233	1,366	1,468	1,281	1,506	1,270
	県外への転出者数	1,655	1,637	1,729	1,782	1,807	1,742	1,715	1,477	1,342	1,479	1,236
	社会増減数	-249	-78	-316	-348	-462	-509	-349	-9	-61	27	34
増減数計		-293	-131	-395	-668	-741	-870	-706	-547	-471	-379	-545

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

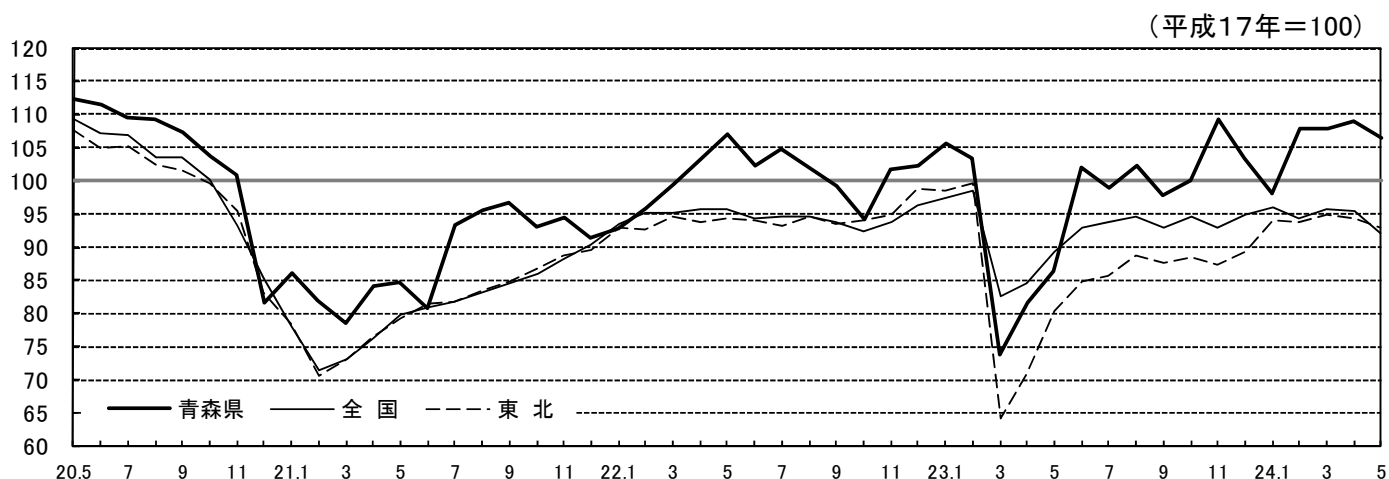
(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

平成24年5月の青森県鉱工業生産指数(平成17年=100)は、季節調整済指数が106.6で、前月比2.2%の低下となり、2ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は103.6で、前年同月比25.0%の上昇となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電気機械工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業などが上昇に寄与した一方、一般機械工業、化学工業、鉄鋼業などが低下し、鉱工業全体では2.2%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

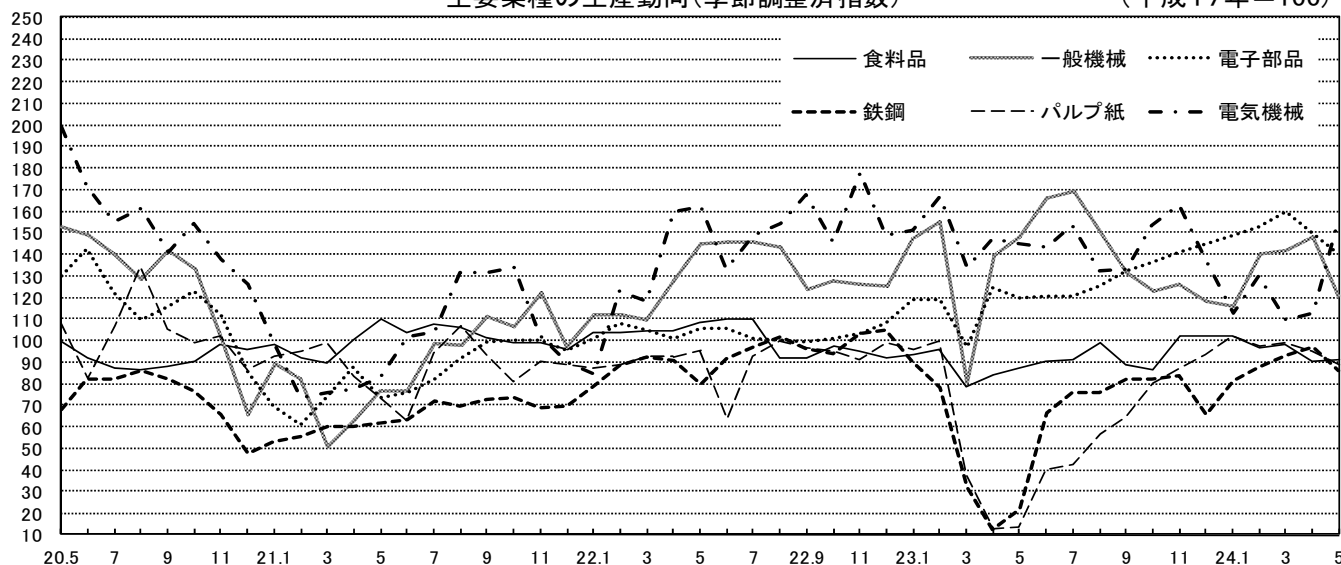


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -2.2%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電気機械工業	38.5	50.9	一般機械工業	-18.3	-72.4
金属製品工業	21.0	22.5	化学工業	-40.3	-39.5
窯業・土石製品工業	7.6	4.6	鉄鋼業	-11.6	-24.4
食料品工業	0.3	1.4	電子部品・デバイス工業	-6.1	-21.5
プラスチック製品工業	7.1	1.3	パルプ・紙・紙加工品工業	-6.3	-10.4

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成17年=100)



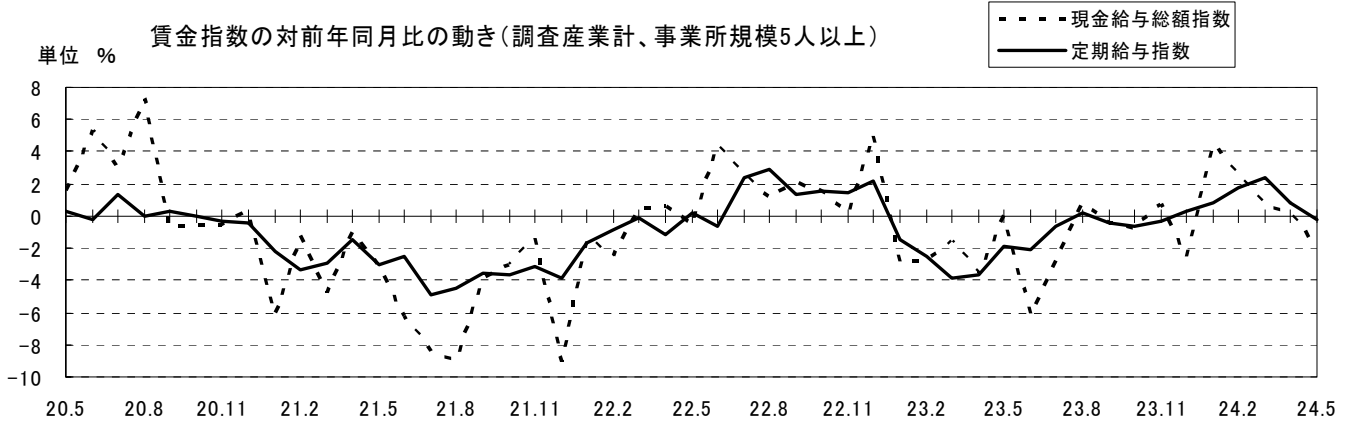
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成24年5月の定期給与は214,246円で定期給与指数(平成22年=100)では97.3となり、前年同月比0.2%減(現金給与総額215,401円、現金給与総額指数83.5、前年同月比2.0%減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は82.2となった。

総実労働時間は150.9時間で、総実労働時間指数は97.6となり、前年同月比0.9%増となった。このうち、所定外労働時間は8.5時間で、所定外労働時間指数は93.4となり、前年同月比0.1%増となった。

平成24年6月の有効求人倍率(季節調整値)は0.61倍で、前月比0.02ポイント下回った。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	215,401 円	267,741 円	83.5	84.5	-2.0 %	-1.1 %
定期給与	214,246 円	260,653 円	97.3	99.2	-0.2 %	0.4 %
特別給与	1,155 円	7,088 円	—	—	—	-35.5 %
総実労働時間	150.9 時間	144.0 時間	97.6	98.2	0.9 %	3.2 %
所定内労働時間	142.4 時間	133.8 時間	97.9	98.1	1.1 %	3.0 %
所定外労働時間	8.5 時間	10.2 時間	93.4	105.9	0.1 %	5.6 %

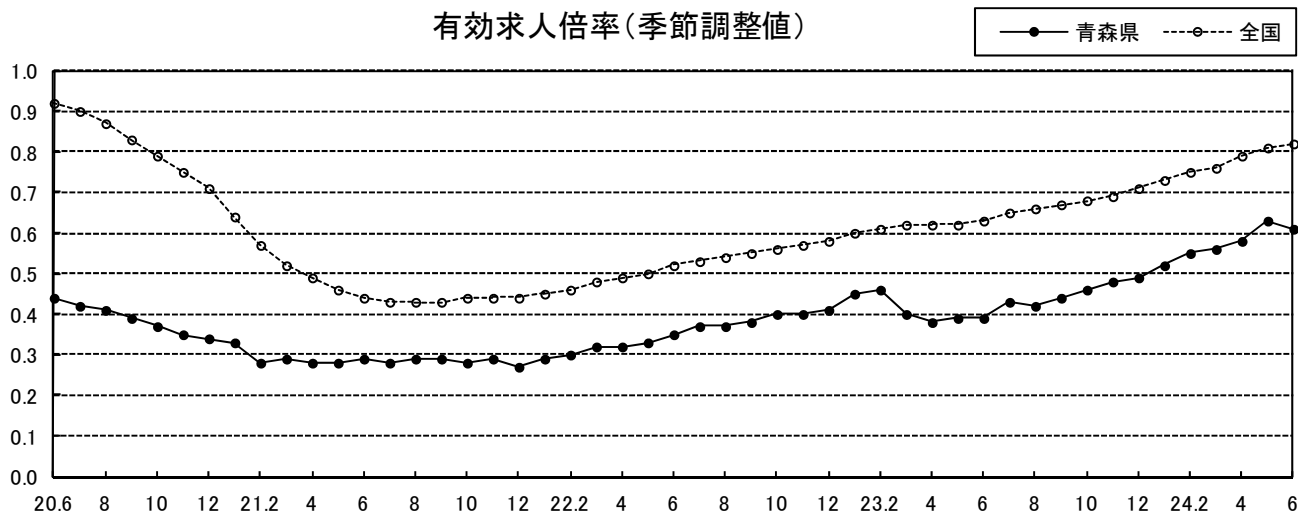
(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

有効求人倍率(季節調整値)



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成24年6月の青森市消費者物価指数（平成22年=100）は、総合指数が99.1となり、前月と比べ0.8%の下落、前年同月と比べ1.3%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は99.3となり、前月と比べ0.7%の下落、前年同月と比べ1.4%の下落となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は98.0となり、前月と比べ0.3%の下落、前年同月と比べ1.3%の下落となった。

総合指数が前月と比べ0.8%の下落となった内訳を寄与度で見ると、光熱・水道、食料などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.3%の下落となった内訳を寄与度で見ると、教養娯楽、住居などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

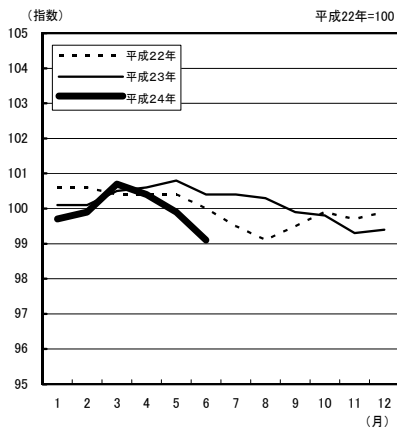


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

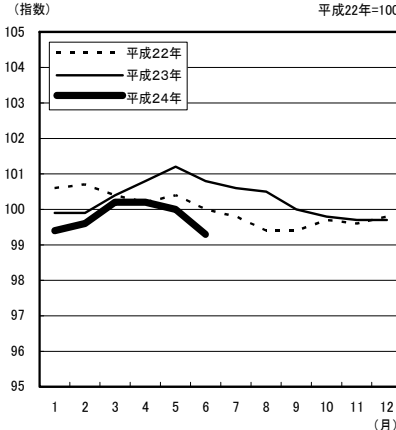
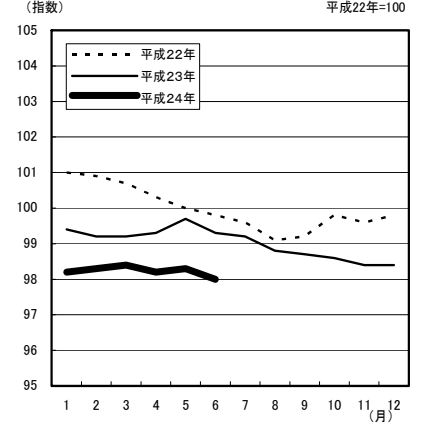


図3 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 借家を除く 総合	食料（酒類 を除く）及 びエネルギー を除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・ 水道	家 具 被 服 及 履 物	保 健 交 通 ・ 信 息	保 医 健 療	交 通 ・ 信 息	教 育	教 養 娯 楽	諸 雑 費
当月指数	99.1	99.3	99.3	98.0	97.9	95.0	97.9	107.4	93.6	102.3	99.2	101.1	96.7	92.9	103.2
前月比 (%)	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.9	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 3.4	▲ 0.2	▲ 2.2	▲ 1.1	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 1.4	0.0	▲ 0.7	▲ 0.3
寄与度	—	▲ 0.67	▲ 0.77	▲ 0.20	▲ 0.21	▲ 0.14	▲ 0.05	▲ 0.24	▲ 0.04	▲ 0.01	▲ 0.01	▲ 0.19	0.00	▲ 0.06	▲ 0.02
前年 同月比 (%)	▲ 1.3	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 1.3	▲ 0.8	1.5	▲ 1.4	▲ 1.6	▲ 4.6	0.5	▲ 1.6	▲ 0.2	0.0	▲ 4.0	▲ 0.4
寄与度	—	▲ 1.39	▲ 1.10	▲ 0.82	▲ 0.20	0.06	▲ 0.30	▲ 0.17	▲ 0.16	0.02	▲ 0.07	▲ 0.03	0.00	▲ 0.39	▲ 0.03

資料：県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比（%）の値に一致する。

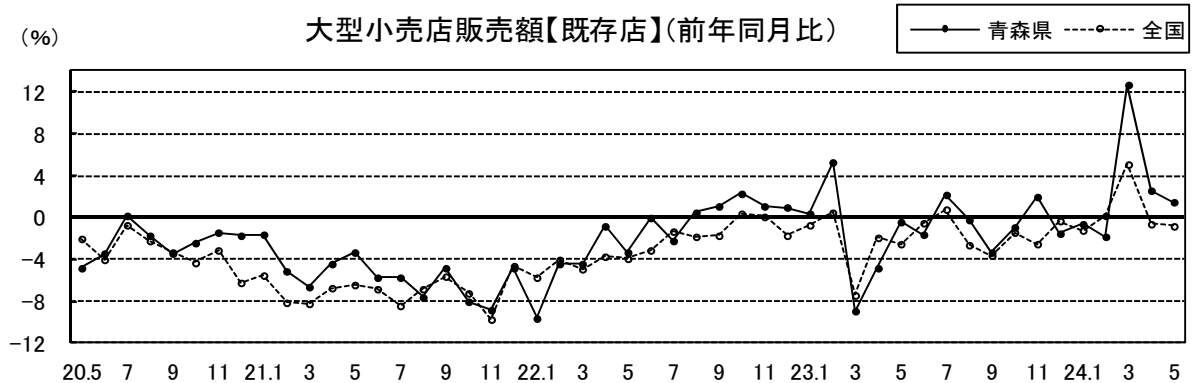
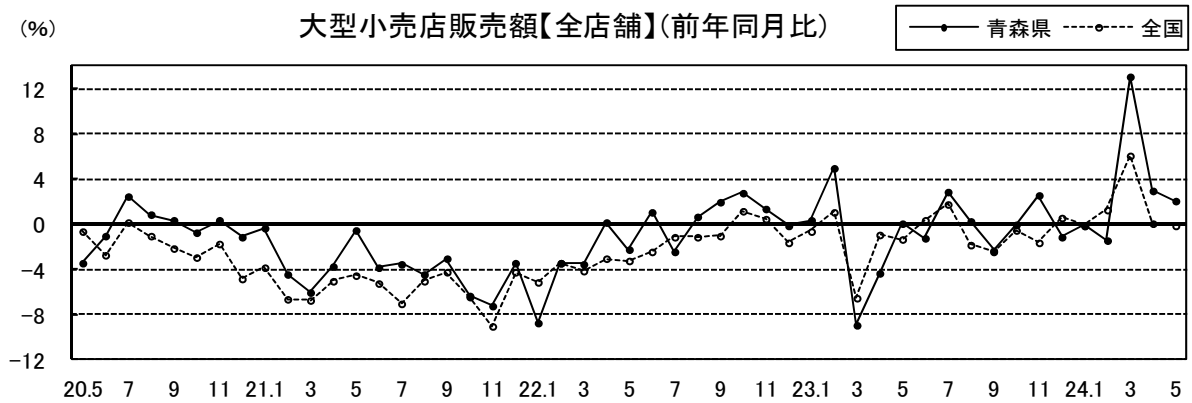
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

(2-4) 個人消費

平成24年5月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが144億5,500万円で前年同月比2.1%増となり、3ヶ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは1.5%増となり、3ヶ月連続で前年同月を上回った。飲食料品、身の回り品などが好調であったことによる。

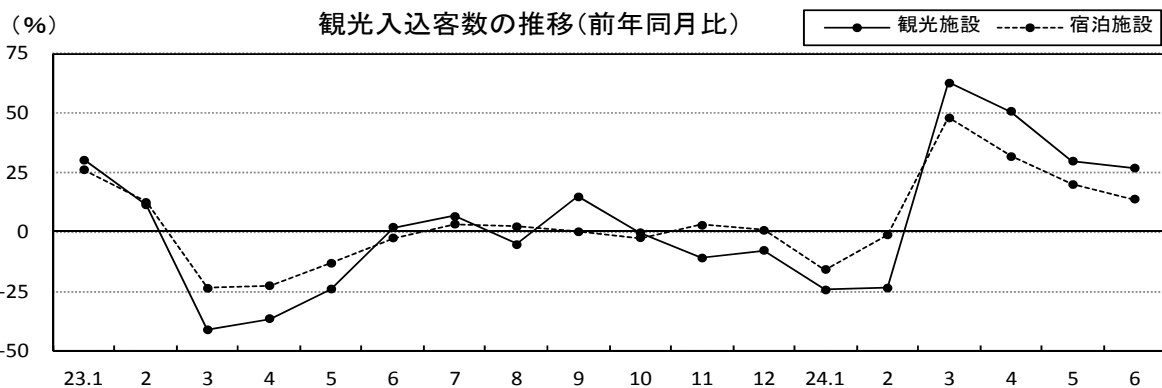
平成24年6月の観光入込客数は、主な観光施設が前年同月比26.9%増となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は13.9%増となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。観光施設はほとんどの施設で増加し、宿泊施設はむつ市以外の地域で増加したことによる。

平成24年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,616台で、前年同月比33.5%増となり、10ヶ月連続で前年同月を上回った。普通車、小型車、軽乗用車がいずれも増加したことによる。

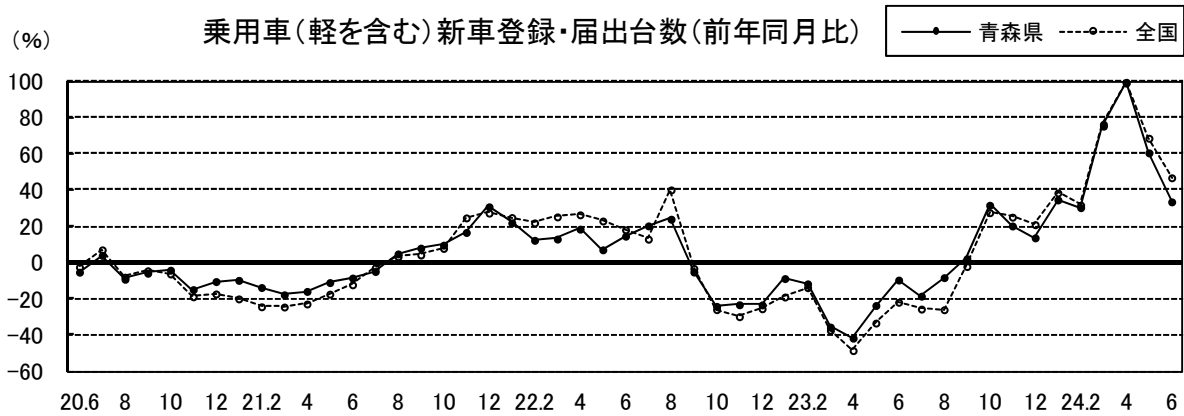


資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



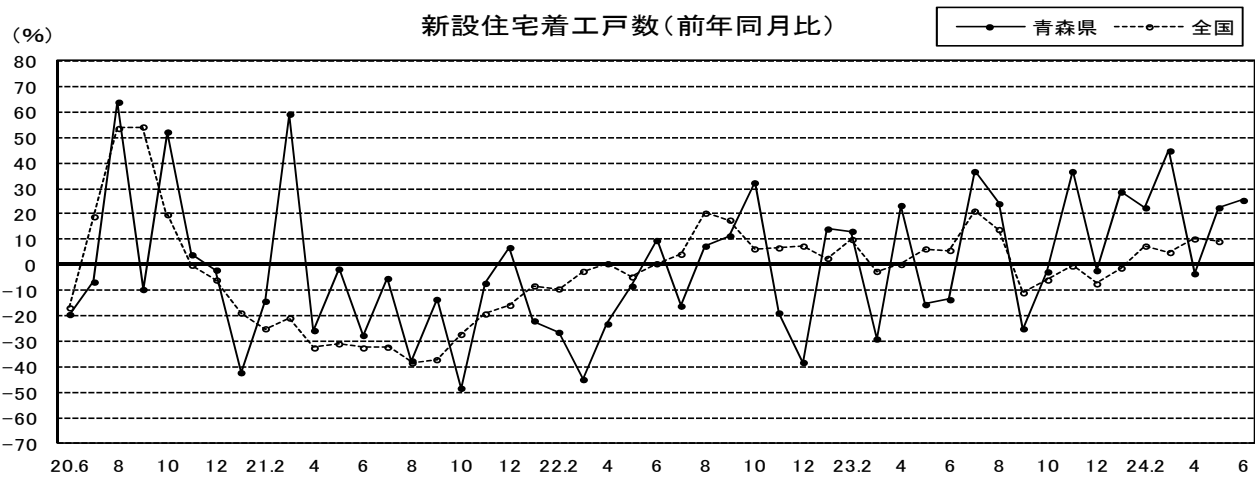
資料：県観光企画課「月例観光統計」 ※観光施設36施設（～23.12は34施設対比）、宿泊施設56施設



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

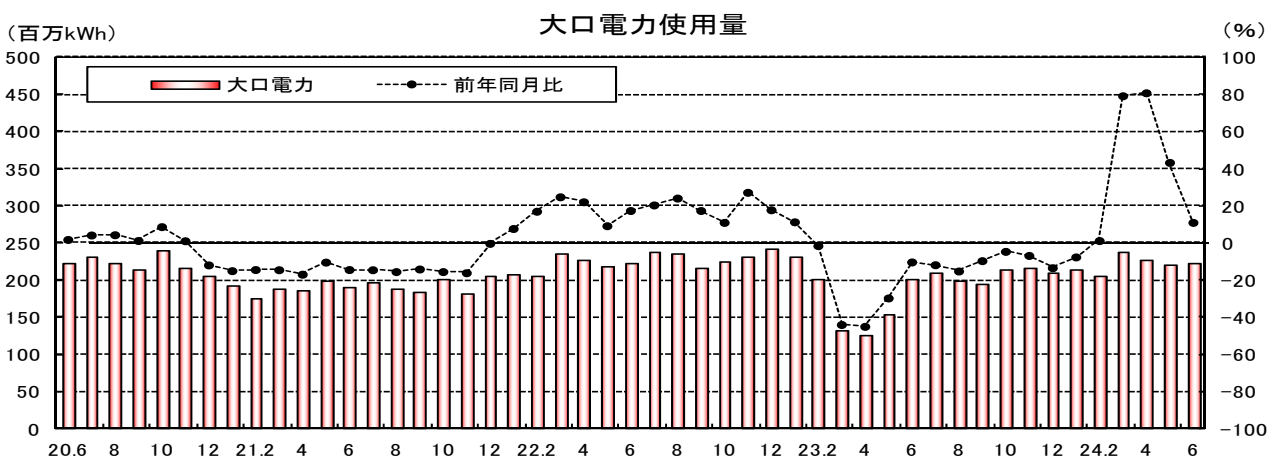
平成24年6月の新設住宅着工戸数は612戸で、前年同月比25.4%増となり、2ヶ月連続で前年同月を上回った。持家、貸家、給与住宅、分譲住宅がいずれも増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 電力使用量

平成24年6月の大口電力使用量は2億2307万kWhで、前年同月比11.1%増（一昨年同月比0.2%減）となり、5ヶ月連続で前年同月を上回った。製造業を中心に増加したことによる。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

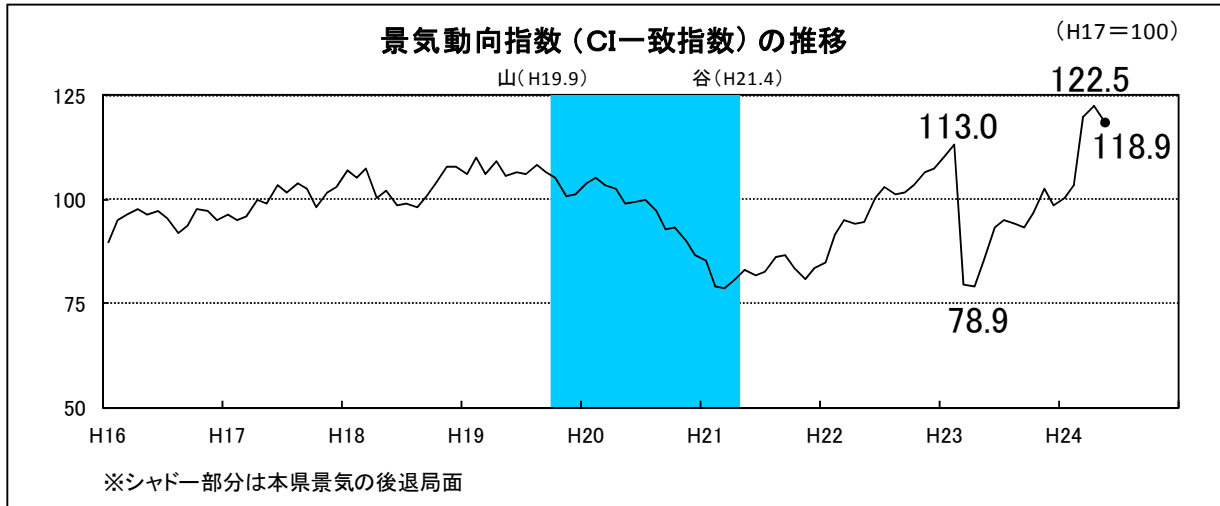
平成24年5月の青森県景気動向指数(CI)は、先行指数 135.6、一致指数 118.9、遅行指数 99.7 となった。

先行指数は、前月を 13.7 ポイント下回り、6 か月ぶりに下降した。

一致指数は、前月を 3.6 ポイント下回り、5 か月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 5.2 ポイント下回り、2 か月連続で下降した。

5月の一致指数は、消費・生産関連等の指標がマイナスになったことから、下降した。



●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています)

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
建築着工床面積	2.84	2か月連続	乗用車新車登録届出台数	-6.97	2か月ぶり
新設住宅着工床面積	1.98	2か月ぶり	生産財生産指数	-6.20	2か月連続
企業倒産件数	0.11	2か月ぶり	所定外労働時間指数 (全産業)	-2.95	3か月連続
			新規求人倍率 (全数)	-1.84	2か月ぶり
			中小企業景況DI	-1.16	4か月ぶり
一致系列					
有効求人倍率 (全数)	1.88	9か月連続	旅行取扱高	-3.25	2か月ぶり
輸入通関実績 (八戸港)	1.79	4か月連続	大口電力使用量	-2.21	2か月連続
			東北自動車道IC利用台数	-0.78	2か月連続
			鉱工業生産指数	-0.61	2か月ぶり
			大型小売店販売額 (既存店)	-0.45	2か月連続
遅行系列					
現金給与総額 (全産業)	0.73	2か月ぶり	公共工事請負金額	-2.00	2か月ぶり
家計消費支出 (勤労者世帯:実質)	0.32	2か月連続	常用雇用指数 (全産業)	-1.41	2か月連続
			青森市消費者物価指数 (総合)	-1.39	2か月連続
			りんご消費地市場価格	-1.33	2か月連続
			県内金融機関貸出残高	-0.46	2か月ぶり

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数 (DI)		
先行指数	75.0%	(5か月連続で50%を上回った)
一致指数	85.7%	(10か月連続で50%を上回った)
遅行指数	42.9%	(9か月ぶりに50%を下回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

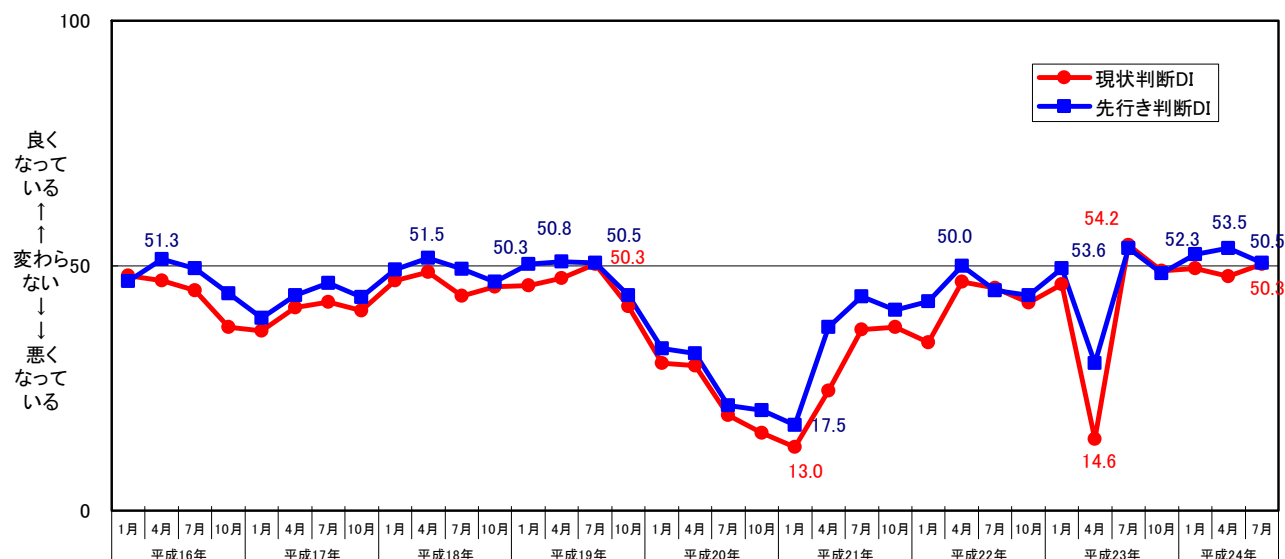
平成24年7月期の景気ウォッチャー調査は、7月2日～7月17日を調査期間とし、回答率は100%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは50.3で、前期調査を2.5ポイント上回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは50.5で、前期調査を3.0ポイント下回った。

7月期における景気の現状判断DIは、4期ぶりに横ばいを示す50を上回った。先行き判断DIは、3期連続で横ばいを示す50を上回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント増加、「やや良くなっている」が3.0ポイント増加、「変わらない」が1.0ポイント増加、「やや悪くなっている」が5.0ポイント減少したことにより、全体では2.5ポイント増加の50.3となり、景気の横ばいを示す50を4期ぶりに上回った。</p>
向	<p>判断理由を見ると、旅行シーズンに入り旅行者数が増加している、震災復旧事業に伴い雇用環境が好転した、という声があった。一方で、消費税増税による消費マインドの冷え込み、誘致企業のリストラや地元中小企業の倒産による求職者の増加を懸念する声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、全ての地区でポイントが増加し、東青、津軽、県南地区では景気の横ばいを示す50を上回った。</p>

● 3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が1.0ポイント減少、「変わらない」が8.0ポイント減少、「やや悪くなる」が8.0ポイント増加、「悪くなる」が1.0ポイント増加したことにより、全体では3.0ポイント減少の50.5となり、景気の横ばいを示す50を3期連続で上回った。</p>
向	<p>判断理由を見ると、夏の観光シーズンを迎え観光客や帰省客の増加を期待する声や、震災関連の復興資金、予算、補助金の増加が見込まれるという声があった。一方で、電力不足や消費税増税による心理的な影響を懸念する声や、エコカー補助金終了に伴う市場の冷え込みを懸念する声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、津軽、県南地区ではポイントが増加し、東青、下北地区では減少した。県南地区では景気の横ばいを示す50を上回ったが、東青、下北地区では50を下回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 旅行シーズンに入っている事と、旅客数が順調に伸びている。(旅行代理店・東青)
- 春の観光シーズンから売上が上がってきている。特に6月はJR東日本の大人の休日倶楽部会員の利用が昨年よりも多かった。(観光型ホテル、旅館・津軽)
- 6月中は旅行者が数多くみられ、ホテルなどのスタッフ派遣会社の延人数が多くなった。(経営コンサルタント・津軽)
- 復興予算の浸透や、風評被害が徐々に薄らいでいるのでは。(設計事務所・県南)
- 徐々にではあるが、観光客が増えてきている。(都市型ホテル・下北)
- 競争が激しくなっており、売上アップの要因が少ない。(スーパー・東青)
- 昨年等と比較すると、有期雇用→無期雇用、パート→契約社員等、雇用が安定した案件の割合が若干増えた印象はあるが、ここ3ヶ月で大きくという印象ではない。(人材派遣・東青)
- 長い景気低迷で、企業の体力が限界に近づいている企業が多い状態です。(設計事務所・津軽)
- 燃料費上昇に一服感が出てきた一方で、消費者の節約志向は相変わらず強いから。(食料品製造・県南)
- △消費税アップ等の問題で、人々がお金を使わなくなっていますし、日々、車の流れ、観光客などの流れも悪く、経済効果が上がっていないと思います。(タクシー・東青)
- △誘致企業のリストラや地元中小企業の相次ぐ倒産で職を失う人が増えるため。(乗用車販売・県南)
- ×昨年よりも売上が落ちている。(コンビニ・下北)

● 3か月後の景気の先行き判断理由

- ねぶた祭があるので、青森へ観光する人が増える。(観光名所等・東青)
- 祭を中心として、物、人の動きが活発になる。(旅行代理店・津軽)
- スタッフ派遣会社の8月までの予約が見通し以上にあるため。(経営コンサルタント・津軽)
- 建設関連を中心に市場にお金が廻りだした。(設計事務所・県南)
- 震災関連で今後も需要が多くなる。予算、補助金などの増加が見込まれる。(経営コンサルタント・県南)
- ガソリンの価格も下落してきているので、これから夏の観光シーズンや帰省客の増加が期待できる。(ガソリンスタンド・下北)
- 体力が限界に近づいている企業が増えつつあり、当地域では良い話題がない。(設計事務所・津軽)
- 3ヶ月先でも使えるお金は変わらないと思われる。(コンビニ・県南)
- △震災の影響は、とりあえず底を打ったとみる向きも多いが、ヨーロッパの信用不安、国内の政治状況を考えると、明るい材料が見あたらない。(新聞社求人広告・東青)
- △可処分所得の低下、増税政策による圧迫感。(コンビニ・津軽)
- △エコカー補助金が予算切れになると、市場の冷え込みが懸念される。(乗用車販売・県南)
- △夏本番に入り、地域のお祭で一時期活気は出ると考えるが、先々を考えた場合、消費税増税が少しづつおもしろとして財布のひもを締めてくる要因になるのではと考える。消費よりは将来の為の貯蓄への気持ちが高まってくるのでは。(百貨店・県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」